

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成24年4月19日(2012.4.19)

【公開番号】特開2011-162468(P2011-162468A)

【公開日】平成23年8月25日(2011.8.25)

【年通号数】公開・登録公報2011-034

【出願番号】特願2010-25303(P2010-25303)

【国際特許分類】

C 0 7 C 39/12 (2006.01)

C 0 7 C 25/22 (2006.01)

C 0 7 C 39/40 (2006.01)

【F I】

C 0 7 C 39/12

C 0 7 C 25/22

C 0 7 C 39/40

【手続補正書】

【提出日】平成24年2月22日(2012.2.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

フラーレン核にハロゲン基が結合しているハロゲン化フラーレンを、一部のハロゲン基を残したまま、水酸基をフラーレン核に結合させて、部分ハロゲン化水酸化フラーレンを生成することを特徴とするフラーレン誘導体の製造方法。

【請求項2】

ハロゲン基が塩素である塩素化フラーレンと過酸化水素とを反応させることを特徴とする請求項1記載のフラーレン誘導体の製造方法。

【請求項3】

ハロゲン基が塩素である塩素化フラーレンと水酸化ナトリウムとを反応させることを特徴とする請求項1記載のフラーレン誘導体の製造方法。

【請求項4】

ハロゲン基が塩素である塩素化フラーレンと水酸化カリウムとを反応させることを特徴とする請求項1記載のフラーレン誘導体の製造方法。

【請求項5】

ハロゲン基が臭素である臭素化フラーレンと水酸化ナトリウムとを反応させることを特徴とする請求項1記載のフラーレン誘導体の製造方法。

【請求項6】

ハロゲン基が臭素である臭素化フラーレンと水酸化カリウムとを反応させることを特徴とする請求項1記載のフラーレン誘導体の製造方法。

【請求項 7】

フラーレン核に水酸基が結合している水酸化フラーレンを、一部の水酸基を残したまま、ハロゲン基をフラーレン核に結合させて、部分ハロゲン化水酸化フラーレンを生成することを特徴とするフラーレン誘導体の製造方法。

【請求項 8】

フラーレン核に水酸基が結合している水酸化フラーレンを、塩化ヨウ素と反応させて、一部の水酸基を残したまま、塩素をフラーレン核に結合させて、部分塩素化水酸化フラーレンを生成することを特徴とするフラーレン誘導体の製造方法。